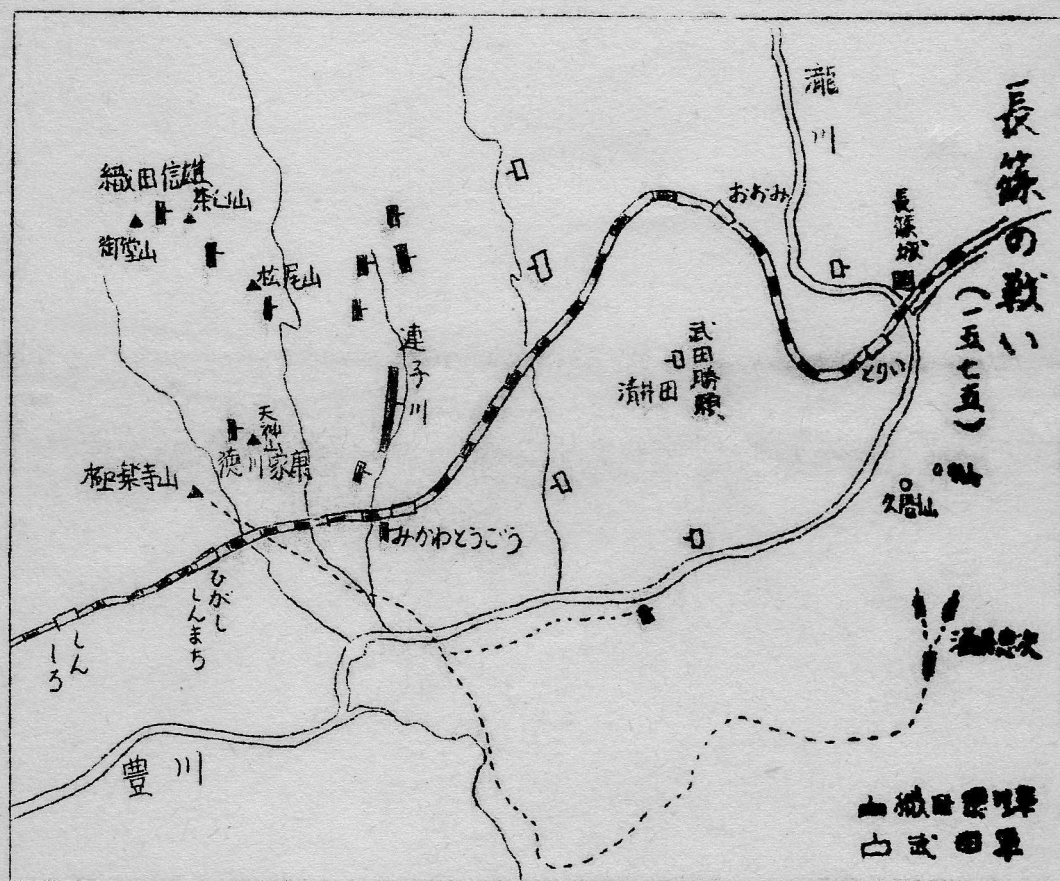


長篠。静岡

—1967年度第2回実地踏査—



名古屋大学郷土研究会

はじめに

今度の12月2日、3日にわたる旅行は、家康研究 第二期(柳扶間より秀吉の天下統一まで)のための参考とするものです。また、残念なことにクラブ員全員が参加できませんが、10月に新しく入部した高橋君もまじえて、一層クラブのメンバー間の親睦を計るためでもあります。今回訪れる長篠・静岡共によく知られたところであり、俗化されているとも言えますが、そのような中からも何か心に触れるようなものを見つけ出したと思います。

(11月30日)

家康の東方進出と長篠の戦い

ここでは簡単に事項を並べるだけに止めます。一五六四年(永禄七)、三河一向一揆を鎮圧し、三河を統一してその領内の統治を計っていた家康は、信長が足利義昭を奉じて京都に入った一五六八年(永禄十一)、時を同じくして遠江今川領への進攻を開始し、その年の暮れには引馬(浜松)を占領し、翌年五月には掛川城を攻略して、今川氏真を伊豆に追い払った。そうして翌元龜元年(一五七〇)、祖父清康以来の居城岡崎をはなれて引馬に移り、ここを浜松城と改名して居城とした。そのため同じく今川領を収めつ武田信玄との対立を深め、一五七二年浜松北方の三方ヶ原で迎撃したが苦戦をなめた。しかし、一五七五(天正三)武田勝頼を三河長篠に大破し、本能寺の変の直前、駿河を占えられ、さらに北条氏と和議を結んで甲斐・南信濃を支配下に収めた。一五八六年(天正十四)家康は浜松城を去って駿府城に移り、東国支配の基盤を築いていった。

徳川家康 実地踏査会(その二)

長篠・静岡

12月2・3日実施

2日(土) 一二・二〇 地下鉄本山駅集合

名古屋駅集合 豊橋 長篠城
二四・〇九着 一五・〇四着

長篠視察(二時間半)

長篠城 豊橋
二二・四三着 一八・五四着

(泊) ユースホテル千歳楼旅館

3日(日) 豊橋 静岡

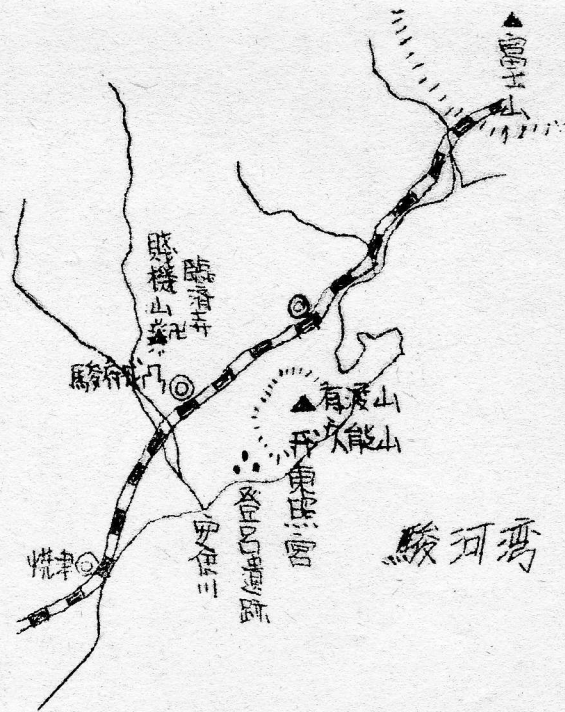
六四一発 九・一七着

静岡視察 駿府城・臨濟寺(戦機山)

東照宮(久能山)

静岡 豊橋 名古屋

一六・一八 一九・〇九
一七・二三 一九・四一着



久能山

静岡と清水の間の南側に見える丘は有渡山である。最高点三〇七mで、展望が大きいので有名な日本平はその山頂付近の平坦面で、久能山はこの丘の南側にある高さ約二八〇mの孤峰である。有渡山の大部分は氷積世の礫層からなり、南の高いだけの根もと東麓には新第三紀の海成層があらわれている。有渡山は氷積世から現在にかけて地盤がだんだんドーム状にせり上がり、てきた台地で、その南半は海食作用でとり去られた。海食作用でできた砂礫は海岸線により北東へ運ばれて、三保のみごとな海峡砂嘴をつくった。南の扇風谷の扇状地は川の浸食による。まよりも、海食崖に対して雨食による、谷が切りこんでつくられた、一種の凹地形(bay ground)である。日本平と久能山の間のロープウェイにのると砂礫層からできている絶壁がよく観望できる。

久能山は、このような垂直の狭谷によって、有渡山の主体から切り離された部分で、その頂上の常緑広葉樹の二んもりした暖帯林が久能山東照宮で、遺言によって徳川家康を葬ったところである。海食崖の根もとに狭い砂浜ができ、集落が連なっている。このかけ下から東照宮へはいるには、暖帯林の中につくられたスエ曲ガリの高い石段をのぼるのである。久能海岸は有渡山によって北風がさえぎられるので暖かく、促成栽培が行なわれ、斜面には石がきイナゴがつくられる。背後の扇風谷から谷筋には天井川がよく発達している。いま東照宮のある所には、古く天台宗の久能山が常まつていたが、一五九九年(永禄二二)駿河国に進出してきた武田信玄が、二二に、城を築くため寺を清水市村松に移した。それが現在の鉄付寺である。武田氏はまもなくこの地から後退し、徳川氏が進出した。一六〇七年(慶長一二)家康が駿府に引退を末意して、ふたたびこの城を修築し、櫓手にも施設を施した。このふもとの郡落が根古屋と呼ばれるのは、久能山がかなり本格的な城塞であった二二

とを示している。

將軍秀忠は翌一六二六年(元和二)父の冥福を祈るため、社殿造営に着手し、12月に完成したものが、現在の東照宮の社殿である。日光の東照宮よりも小規模であるが、華麗をきわめ、江戸初期の代表的建築物として重要文化財に指定されている。また宝物には具足・太刀をはじめ、南蛮渡来の時計などがある。

東照宮が久能山に営まれると東海道を上下する諸大名や諸幕臣の中には、途中の宿から久能詣でをするものも多く、久能街道はこうした人々の行列でたいへんににぎわっていた。駿府城(静岡市追手町)

もと今川氏の築城。慶長年間(一五九〇年ごろ)今川氏の後をうけて徳川家康が築いたもので、秀島城・駿河城ともいった。城郭は二つわけて、むかしの壮麗さはなりが、石垣や月りにかつての姿を止めている。

今は公園となつて、駿河公園や児童会館など建てられ市民憩いの場所。

臨済寺

静岡市丸山町、駅北東二・五km

・宗派—臨済宗・開山—大原太閤禪師

開山の大原太閤禪師には後奈良天皇が帰依し、

その勅額が今ものこっている。家康は竹

千代といった幼年時代、今川氏の人質として駿府におり、この寺の大原和尚に史書・兵学

を教わったという部屋がある。本尊には名工春日が作った阿彌陀仏を安置してある。

庭は戦機にも利用し、茶亭無想庵露地・書院・方丈裏と三段に鑑賞するように作ってあり、上下一〇m以上の高低をつけ、複雑な地割をして、カリ込みを主にしている。大原重臣の作といい、江戸中期の築庭で、地方色の濃い禅宗庭園として名前に指定している。境内には家康の護持仏であった摩利支天堂がある。

長篠の戦い

三河国長篠(愛知県南設楽郡鳳来町)にあった長篠城の攻防戦。一五七五年(天正三)、城を囲んだ武田勝頼の軍と、織田・徳川連合軍が激戦したが、武田方の伝統的騎馬戦法は、鉄砲を連射する連合軍の新戦法にあって壊滅した。この戦いは武田氏滅亡の原因となった。信長は背後の脅威を除かれ、家康は遠江、駿河へ進出する足がかりを得ることとなった。

(参考) 三万原台地

・静岡県浜松市西北部の決積台地
約一二〇m、浜名湖岸で二五m。酸性土壌と礫層のやせ地のため明治までは入会採草地であったが、一八八九明治三年の士族の入植後、しだりに開墾されるようになった。国営三万原用水の完成(一九七〇年)の予定後の開発が期待される。航空自衛隊浜松基地がある。
・一五七二年(元龜三年)武田信玄が徳川家康・細川信長軍を破った古戦場としても有名。三万原の戦い